



## 第74回卒業証書授与式



3月1日(火)、第74回卒業証書授与式をとり行いました。胸にコサージュをつけた卒業生が拍手に迎えられて入場し、開式。各クラス担任から一人ひとり呼名され、各クラス代表者に卒業証書が授与されました。

川久保校長先生は式辞の中で、この2年余りの新型コロナウイルスの感染状況とニュースや報道番組で発信される様々な情報にふれ「…これから先、皆さんは様々な局面で自分で判断することになります。現在、短時間で多くの情報を得ることができますが、事実として誰もが認める部分とそこから導かれた個人の考えを見分け、情報を取捨選択しどのように生かすかを判断する力が求められます。そうした判断力を身につけるためには、これからも自らの意思で学び続ける必要があります。」と話されました。

また、元NHKアナウンサーの山根さんがある講演会で『感謝する心を持つということは、謙虚になれるということであり、結果として良い人間関係を構築でき、自分の人生を幸せにしてくれる。』と話していたことを紹介し、「皆さんには隣の人、身近な人と心を通わせ、より充実した人生を送るために言葉の力を身につけ、さらに磨きをかけてほしいと思います。」と卒業生にエールを送られました。



在校生代表の松田 遼さんは、高村光太郎の詩『道程』を紹介し、「…これから皆様は先の見えない道をひたすらに進むことになるでしょう。期待や希望以上に不安の方が大きいかも知れません。時には立ち止まって振り返りたくなる時もあると思います。そのような時は自分が重ねてきた努力や仲間と協力してきた日々を思い出してください。皆様が海南高校で築き上げてきたものは一生の武器となります。…そして機会があれば、ぜひとも海南高校に遊びに来てください。先輩方が繋いでくれた伝統を守りつつ、海南高校をさらに発展させていきたいと思っています。」と、送辞の言葉を送りました。



また、卒業生の炭 捺希さんは答辞で、高校生生活の様々な場面を振り返った後、ドイツの哲学者F. ニーチェの言葉を他の卒業生に送りました。「『事実というものは存在しない。存在するのは解釈だけである。』人は必ずこうあるべきだという正解などはない。あるのは人それぞれの解釈であって、他人の解釈や価値観に縛られる必要はないという力強いメッセージが込められています。自分がいつの間にか当たり前だと認識していた事柄が、かえって自分を縛りつけるものになっているかもしれません。変化が求められる時代だからこそ、自分を見失わないように日々を大切に生きていくべきではないでしょうか。…私たちはこれから新たな世界へと旅立っていきます。」と述べました。厳粛で心温まる卒業証書授与式となりました。

